

# チーム医療って？



医療従事者がお互い対等に連携することで  
患者中心の医療を実現しようというもの

シームレスな  
チーム

厚生労働省

## チーム医療実証事業



- ・平成23年度
- ・看護師や薬剤師など医療関係職種との連携を促したり役割を拡大したりすることで、チーム医療を推進するため、厚生労働省は来年度、チーム医療の安全性や効果について検証する実証事業に新たに着手する。
- ・予算案では3億6500万円となり、最終的に90施設で取り組むことになった。

離床前に大切な3つのセオリー

1. カンファレンス
2. モニタリング
3. フィジカルアセスメント

## 当院でのチーム医療

- ・離床は誰が実施してもいい。
- ・1人のスペシャリスト教育より、全体の底上げ(汎化)が大事。

皆で取り組みば  
ケアの密度もUP

## 急性期離床への介入のきっかけ



患者さんとの出会い

- ・廃用しきった状態で離床開始しても、回復に時間を要すばかりでなく、回復できないまま負の連鎖で寝たきりになる、状態を乗り切れないままにいる、そんな患者さん
- ・拘縮や褥瘡、痙などで壮絶な死を遂げる患者さん

# どう始めたの？



当院での

## 早期離床介入までの流れ



- 平成10年 離床の必要性は周知  
しかし業務多忙により進まない
- 平成12年 病棟担当制を導入 (顔を売る)  
窓口となり密な連携が可能になった  
Drのペーパー業務を効率化する
- 平成13年 呼吸療法認定士に向けた院内勉強会開始  
仲間を増やす
- 平成14年 早期リハ加算
- 平成18年 疾患別リハ 呼吸器リハ } 診療報酬
- 電子カルテ導入
- 平成20年 院内離床勉強会 開催

## はじめて急性期病棟ICUに入ったときの現場の反応



- ・瀕死の人、安静が必要な人を動かすなんてヒドイ人という目。
- ・業務量が増えるというイメージが先行。
- ・何とか腹臥位にしたのに、あっさり背臥位に戻されている。
- ・離床が浸透したすと今度は離床という名の「張り付け坐位」

「人より1歩前へいくと頼れる存在になるが、3歩前へ行くとただの要人扱いになる」

患者側  
苦しいから自分は離床ところではない  
離床して傷が開くのではないか  
家族  
人工呼吸器のついた人に離床なんてとんでもない  
無理したら可哀相

誤解

医療者側  
離床は全身の疲労を招く  
手術創が離開する  
急性期は安静が大切で離床は逆効果である  
患者の協力が得られない状態では実施できない  
離床は看護師が実施すればよい  
チーム医療にすることで無駄な医療費がかかる



## パンフレット作成による啓蒙

## 健康促進・自然治癒力促進



休養

安静



栄養

栄養補給



運動

運動補給

≠運動負荷

貯金も貯筋も大切

花に水、料理は心、  
人間には血流



・老化は足腰から ・足は第二の心臓

患者さんにも分かりやすい説明を



現在の状況

- ・術前からのオーダー  
危険な症例はオーダー依頼
- ・離床時他職種の積極的関与
- ・定期的なカンファレンスの開催  
(総回診1回/週、チーム内1回/週、各病棟2回/月、UHC1回/月など)  
毎日の軒下カンファレンス
- ・定期的な勉強会の開催  
(新人の啓蒙目的の勉強会と中堅の育成目的の勉強会と分けて開催)  
離床勉強会を卒後教育の一環に導入



うまくいくコツはないの？



インタビュー

～チーム医療実現のために意識していることは？～



5年目PT  
毎日の小さな変化をその日の受け持ちNsに細  
まめに報告することですかね。



15年目PT  
他部門の仕事内容を知ることからやな。  
急性期になるほど職種間の垣根は低くした方がええで。

25年目PT  
待ってもあかんよ。自分が動くんよ。  
あとは初めから求め過ぎない事よ。一人でも協力者を見つけるこ  
とから、まずは知ってもらうことから。友達作りと一緒よ。

臨床で使えるコツ



オススメ

- ・詰め所の前で離床している所を見てもらう。(意識付け)
- ・メンバー不足は言い難いながらも、しかし理解はする、ピッチ持って走り回っている現状がある。
- ・何でも欲張りな言い、カンファも80%は雑談でOK、大切なのは意見が出ることであり、敵にしないこと。
- ・ベテランを1人味方につける、正確で押しても人は動かさない。

警句

- ・頑張らっしゃい！
- ・もっと患者さんのことを考えなさいとダメ！
- ・これらは子供の学習意欲を最もよく言葉「勉強しなさい！」と同じ！

まとめ

離床は大事って分かってる…  
出来ない理由が多い



職種間に壁を作る前に

橋を作ろう

他職種の業務内容を知る